

◆ 就学前施設実践事例 ◆

事例① 5歳児クラス・4～8月

ねらい「友だちと自分の言葉で思いや考えを伝え合う」

「生活発表会を通して — 安心感から広がる豊かな伝え合い —

子どもの姿

4歳児クラスでは、保育者や気の合う友だちと安心して過ごす中で、休みの日や家庭での出来事など、自分が経験してきたことを積極的に話す子どもの姿が多く見られました。

5歳児クラスに進級してからは、遊びの中で自分の思いや考えを友だちと伝え合う姿がより活発に見られるようになり、その姿を嬉しく見守り、尊重してきました。そこで、安心して友だちと考えを伝え合えることを土台にしながら、伝え合いがさらに深まったり、仲間と伝え合うことを通して、自信や達成感を味わったりすることができる機会として、子どもたちの生活発表を行うことにしました。

子どものあそびや経験

■生活発表会に向けて話し合う様子



行動・発言

- ・楽しかったこと、うれしかったこと、発見したこと…自分が経験して、心が動いた出来事から、友だちに伝えたいことを決めていきました。
- ・発表する日にちや、順番は、子どもたちが中心になって話し合い、決めていきました。

→自分が発表する日を忘れちゃいそう…、と不安を感じる子どものつぶやきから、どうしたら忘れないか投げかけ、子どもたちの話し合いを促しました。

行動・発言

- ・「カレンダーに書けばいいんだよ！」ある子のアイデアが子どもたちの間に広がって、保育室のカレンダーに自分の名前を書き込むことになりました。
- ・「どこに書けばいいの?」「ぼく、名前かけないよ」友だちの言葉を聞いて、手伝ってあげる子や、保育室に常設していたひらがなカードを持ってきて、友だちが自分で書けるように支えようとする姿が見られました。

■発表する順番をカレンダーに書き込み様子



行動・発言

- ・写真を見せながら自分の体験を話しました。言葉だけでなく、身振り手振りを交えて話す姿も見られました。

「魚がエサを食べるとウキが見えなくなるので、急いで釣ります」

→友だちの話を聞き、自分が興味をもったことについて、もっと知りたい気持ちが高まってきました。そこで、友だちと伝え合う「質問タイム」を設けることにしました。

■生活発表当日、

Aちゃんがみんなの前で発表する様子



ポイント

■安心して話すための環境の工夫



◎配慮事項（発表カード、写真を活用して）

- ・発表する子どもの中には、緊張していたり、話したいことはあっても、言葉として出しにくかったりする子どもいました。
- ・「いつ」「どこで」「なにをして」「どうだったか」カードを見ながら話せるようにすることで、話すことが思い出しやすくなり、子どもたちが安心して話す姿に繋がりました。
- ・スクリーンに写真を写すことで、発表しながら場面を思い出しやすくなりました。聞いている子にとっては、興味をもって聞くことができ、話の内容がイメージしやすくなりました。

■質問タイム、子どもたちの伝え合いの様子



「景色はどうでしたか?」「階段をよつたら何がありましたか?」

行動・発言

- ・質問をされた子どもはうれしそうな表情でした。友だちから聞かれたことで、「そういえば!」と思いつき、さらに詳しく話そうとする姿も見られました。
- ・質問を通して、伝えたいことを一生懸命に言葉にする子どもいました。友だちとのやりとりにおもしろさを感じたくさんの質問を考える子どもいました。

あそびや経験が小学校につながるように

この活動を通して、子どもたちは経験を言葉で伝え合う楽しさを実感しました。帰りの支度や遊び方も自分たちで話し合って決める姿が日常化しました。保育者は原則見守り、安全・停滞・不公平の際のみ短く介入しています。これらは小学校の学級活動や生活科につながる「話す・聞く・決める」「役割分担」「合意形成」の基礎を育てます。

(保育者)

小学校では、国語科の「話すこと・聞くこと」の学習指導や生活科や特別活動等の時間に、1人ひとりの子どもたちが自分の経験や気持ち、思いなどを表現できるように支援しています。1年生では、伝え合いの場（話し手と聞き手の距離、聞き手の人数など）を配慮したり、本事例のように発表しやすくなるように、写真や絵カードなどを活用したりしています。

(小学校教員)

子どもたちの「言葉による伝え合い」が豊かになるのはどのような時でしょうか。①先生や友だちとの信頼関係が土台となって、安心して話すことができる環境があること、②思わずみんなに伝えたいと思えるような経験や体験があること、③自分の話を興味をもって聞いてもらったり、友だちと伝え合うことの楽しさや喜びを十分に感じられたりすること。事例でも、これらを通して子どもたち自らの「話したい」「聞きたい」思いが豊かに育っていく様子が見えてきます。園と学校で共通して行える手立てや配慮すべき事柄を共有しながら、それぞれの発達段階に応じて工夫できそうなことについて考えてみましょう。

(コーディネーター)